

7/18  
土曜

## 戦争法案

# 「戦争へ草の根共回り」

安部内閣と自民は戦争法違反の戦争法案を衆院で強行採決したもの、法案に反対する広範な市民の草の根の共同で、賛成派を超えた一点共闘が日本列島各地で燃原の火のようになっています。空前の規模になったたかいを地域でさかんに進む、戦争法案を廃案にするたかいを広げようとしています。（内藤真由子、写真も）

## 市内46団体が結集

相模原

「國主権を踏みにじる強行採決に抗議します。地域から声を上げ市民の力で必ず参院で廃案にしましょう」。戦争法案が衆院本会議で強行採決された16日午後2時すぎ。

「署名は初めて」という18歳の同大生2人連れは、「日本は戦争して大変だったのになぜ繰り返すの。訳分かんない『戦争していいことはない』。絶対反対」。

高校の同級生の男性2人組（21歳）は、「あれだけ遺憾と言われているものを通すなんていふたつも問題だ」と語ります。

近づく相模女子大学の学生らが次々と署名に応じ、飛び入りでこう配布を手伝つ若い男性まで現れました。「連間前の大學生は『自民支持』と

「自民はおじいさん（岸信介元首相）の亡靈に取りつかれていて危険だ。集会に行こうか

学生ら次々署名・老人クラブ会長ら賛同

# 「強行」に怒り 党派超え



若い人が次々署名に応じた「ストップ戦争法7・31大集会inさがみはら」実行委員会の強行採決に抗議する宣伝行動=16日午後、相模原市

## 県政初の合図宣伝

佐賀

「保守主義」といわれる佐派「安保法案廃案に」「朝賀県でも日本共産党、民主党政権などと大きく報じました。」(元農林省議員)、「戦争をさせない議員による遊説派の街頭宣伝活動が取り組まれています。佐賀県1000人委員会」の主催した「戦争をさせない佐賀県代表(田中町長)」(5日)。各紙も「廃案求め初の共闘」(佐賀新聞)「超党派議論」(佐賀新聞)で言わざる者も「危機感の現象について」(佐賀新聞)などと報じています。

代表(59)は「戦争法案は『二度と戦争しないで』という元農林省議員の方々の願いを頼んで地方議員が参加します。運動がないもので絶対に認められないのが広がりと運動」、同市議会の「戦争をさせない1000人委員会」(佐賀新聞)は「戦争をさせない」と語ります。

大草さんは言います。「安倍首相は従来の保守王道とは

違った政治のにおいて持つていています。憲法解釈を勝手に変えて、学者や元最高裁判事

が名を連ねています。

り「戦争させない・9条壊す」が名を連ねています。

な！ 総がかり行動根室実行委員会」が結成されています。

川嶽了代表(世話人)が呼び、織田さんは「ほとんどの学者

かけたもの。21日には、強行採決に抗議し参院での廃案

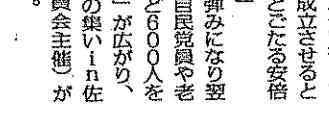
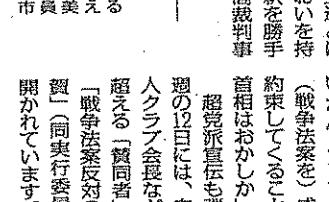
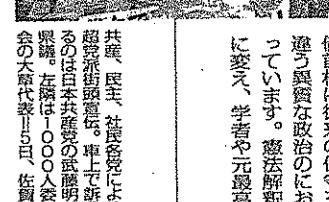
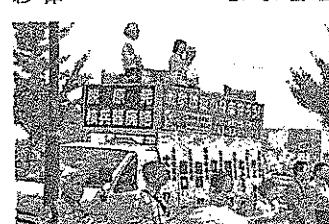
を求め、デモ行進を行いました。

党派を超えて、市民一人ひとりが声をあげ、結束して反対運動をもぎてくことが肝要あります。

川嶽了代表(世話人)が呼び、織田さんは「ほとんどの学者

の座右銘『千万人といえども吾往かん』で、

弘さん(?)もその一人です。祖父の座右銘の銘『千万人といえども吾往かん』で、



があれだけ遠慮と書っているのを強行採決するなど聞く耳をもたない暴走です。祖父の座右銘の銘『千万人といえども吾往かん』で、最高責任者である自分がやつていることは何でも正しい、といつてはいんでもない話です」「今までそれそれが立場を考え取り組んできただけではない。戦争に向かうよう案に追いかかる上で必要だ」と語ります。

地元紙の事前報道をみて街頭宣伝に夫婦でやってきた神埼市の男性(32)は、「安倍首相のやり方は頭にきどっと。がんばって止めんはおかしかる。自衛隊が足らなくなると微兵制の危険もある」。

唐津市では特攻出撃する兵士を通じて良送った経験があります。「さびしそうな国をしてね。血の気がなかつたことです。戦争だけは絶対いかん。アメリカに行つて(戦争法案を)成立させる約束していく」といたる安倍首相はねかしか